



県央がんセンター、患者サポート室では、色々な相談をお受けしています。
皆様お気軽にお立ち寄りください。運が良ければヘリドッグ太くんが出迎えてくれるかも？

診療科紹介

Vol.29 病理診断科

最新医療紹介

大動脈弁置換術に使用する
ステントレス生体弁

TOPICS

- ・令和元年度集団災害訓練を終えて
- ・シンガポール国際学会体験記
:Nurse Practitionerである私の挑戦!!
- ・今年も元気なJICA集団研修でした。
- ・NASHIM(ナシム)研修について
- ・夏の思い出フォトコンテスト

第6回市民公開講座のご案内

「すといしーぷ」と湾岸戦争と医局会
Vol.1「すといしーぷ」

看護部だより

患者サポート室からのお知らせ

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.29

病理診断科



2019年度病理診断科スタッフ
(左より)

三原 裕美 医師

三浦 史郎 医長

伊東 正博 医師
(シニアフロンティア)

病理診断科について

病理診断は、病院の中では患者さんの前で行われることはありませんが、患者さんの体から採取した細胞や組織を顕微鏡で調べ、病気の有無や良性・悪性の判定、病変の広がりなどを判断する重要な仕事です。いわゆる“縁の下の力持ち”的存在ですが、正しい診断を行うことで、医療の質を担保する重要な役割があります。また、長崎医療センターは長崎県の中核病院として、高度先進医療を含め広範囲の医療を県民に提供する責務を負っています。病理診断科に

おいては、常に最新の知見に基づく検索と情報提供を行ってゆきます。

当病理診断科には常勤病理専門医3名、臨床検査技師5名が在籍し、年間に組織診断6,500件、細胞診6,000件の診断を行っています。病理専門医は全国で約2,500人と非常に少なく、県内には27人しかいません。専門医の中でも希少かつ負担の大きい職種と言えます。全国的に危機的な病理医不足を打開するべく、病理医の育成も重要な課題の一つです。

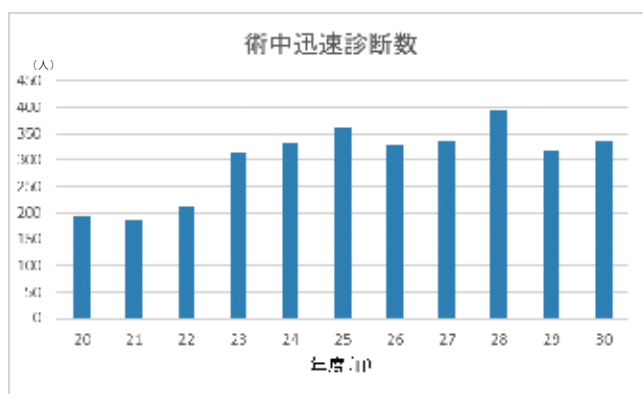
病理診断科の業務

1) 組織診断

手術で摘出した臓器(手術例)や胃カメラなどの内視鏡検査で採取した組織の一部(生検)を顕微鏡で

見て診断を行います。がんなのか、がんではないのか、どんな種類のがんなのかという質的診断から、どの広さまでがんが広がっているのか、リンパ節の何番ま

で転移があるのかなど、範囲診断など多岐に渡ります。病理診断が担う業務範囲はほぼ全科の診療に関わっているため、すべての診療科に対応していかなければなりません。当科では、すべての症例に関してダブルチェックを行い、診断精度の向上に努めています。診断困難例については、他施設へのコンサルトや論文等の最新知見を積極的に利用し、また各学会に症例や研究内容を提示する事で、病理診断における精度管理を行っています。さらに当院各診療科とのカンファレンスを行うとともに、学会などへの発表のサポートや他施設との共同研究等も重要な仕事と考えています。



4) 病理解剖

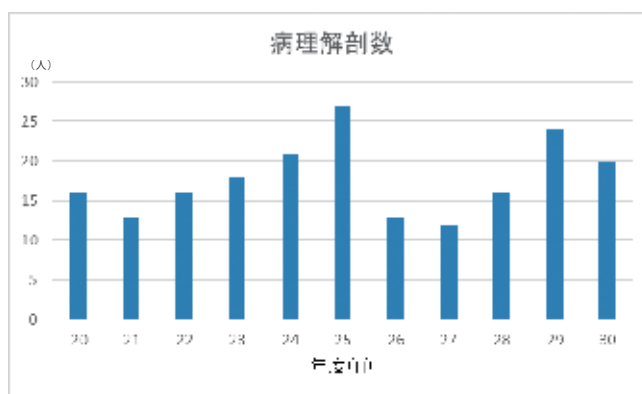
病気で亡くなった患者さんを解剖し、死亡の原因や生前の診断が正しかったのか、治療法の効果や病変の広がりなど、今後の医療に生かすために行います。診断が適切であったかを常に振り返り、さらなる治療向上のためには、病理解剖は必要不可欠で、重要な

2) 細胞診断

たんや尿、または患者さんの体に針を刺して採取した液体をガラス標本に塗り、顕微鏡で調べます。細胞検査士が主としてその業務を担当しています。

3) 術中迅速診断

患者さんが手術をしている最中に、腫瘍が良性なのか、悪性なのか、リンパ節に転移があるのかどうか、または手術で腫瘍がすべて取り切れているのかどうかを、15～20分で標本を作製し、病理専門医が診断して手術場に報告することをいいます。最適な手術法の選択に瞬時に影響を及ぼす診断業務で、診断後手術方針が大きく変わることもあります。



情報源となります。また、病気が全身臓器に及ぼす病理学的な変化を学ぶ貴重な機会でもあり、当科では年間6回の解剖症例のカンファレンス(CPC: ClinicoPathological Conference臨床病理検討会)を行い、医療の質の向上に努めています。

さいごに

当病理診断科(及び臨床検査科)は、国際規格である「ISO 15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)」の認定を取得し、要求事項に基づき、業務施行・管理運営・評価・教育等を行っています。国際規格による認定取得を通して、検査結

果の精確さが向上することにより、より臨床的に良質な検査が施行されることとなります。我々病理診断科一同、医療の質の向上に寄与すべく、正確で迅速な診断を心掛け努めて参ります。



大動脈弁置換術に使用するステントレス生体弁

心臓血管外科医長 松隈 誠司



近年、長寿社会を反映して大動脈弁狭窄症を患う高齢患者さんが増加傾向にあります。大動脈弁は加齢とともに硬化し、動きが悪くなることがあります。大動脈弁の動きが悪くなることで心臓の出口が狭くなった状態が大動脈弁狭窄症です。失神発作や胸痛などの症状を起こすことがあります。治療は動きの悪くなった大動脈弁を切除し、人工弁で置き換える手術を行います。

人工弁は大きく機械弁と生体弁の2つに分けることができます。生体弁は15-20年程度で徐々に劣化してくるという欠点がありますが、機械弁では生涯内服を継続する必要がある抗凝固薬（ワーファリン）の内服が不要になるという大きな長所があります。そのため65才以上、特に70才以上の方には基本的に生体弁を使って手術を行います。しかし日本人は欧米人に比較して体格が小さく（特に高齢女性）、当然のごとく大動脈弁も小さいため、最小の生体弁でも患者さんの体には大きすぎて挿入することが難しい場合があります。



	機械弁	生体弁
構成	カーボン、チタン	ウシ心膜、ブタ心臓弁
耐久性	半永久	10-20年
推奨適応年齢	若年者	高齢者（65歳以上）
移植後抗凝固剤	必要	不要

2016年発売

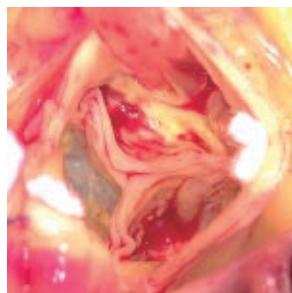


ステントレス生体弁 SOLO SMART

2016年よりステントレス生体弁SOLO SMARTが日本でも認可され、使用できる人工弁の一つとなりました。通常多く使用されているステント生体弁は金属の型の中に牛の心膜を成形して縫着することで作成されていますが、ステントレス生体弁はその名の通り金属の型（ステント）のない生体弁で、2枚の牛心膜シートを直接縫いあわせて作成されており、外側の心膜を直接大動脈基部壁に縫い付けることで挿入します。ステントがないため人工弁は小さくできており、体の小さい方にもより大きなサイズの人工弁を挿入することができます。

当院でも体格の小さな女性を中心にステントレス生体弁SOLO SMARTを使用しております。術後の心臓超音波検査でも良好な結果を認めています。

これからも患者さんにとって最適な人工弁を使用して安全・確実な手術を行って参ります。



正常大動脈弁



肥厚硬化した大動脈弁

令和元年度集団災害訓練を終えて

火災・災害対策委員 救急科 日宇 宏之



当院は長崎県基幹災害医療センター、および国立病院機構九州ブロック災害拠点病院・原子力災害拠点病院に指定されており、災害時に果たすべき重要な役割を有しています。今年度も院内災害訓練を行いましたので報告いたします。

本訓練に際し、昨年度と同様に、外科系医師赤エリア内手術対応・対策本部立ち上げ・クロノロ記載・カルテ記載(医局会・研修医)など事前に個別訓練も行いました。

今年度は、診療時間外の発災を仮定し、(訓練当日は木曜日でしたが土曜日と設定)“令和元年7月11日14時、橘湾を震源とする震度6の地震が発生”として実動訓練を行いました。発災後、災害対策本部暫定指揮者である救急科責任医師役であった中原先生中心に災害対策本部が立ち上がり、その後江崎院長へ引き継がれました。その過程で、当院の被災状況(患者・職員・建物・ライフラインなど)より、救急患者受け入れおよび臨時病棟立ち上げと業務計画が立てられました。活水大学看護学部学生協力のもと模擬傷病者41名(赤13名、黄11名、緑、12名、黒5名)

と傷病者家族3名、ボランティア1名、マスコミ1名の受け入れを行いました。今回は、災害対策本部の引き継ぎ完了前に、傷病者搬入が始まる設定にしていたので、赤エリアである初療室では昨年よりも混乱し、防ぎえた災害死が発生していました。他のエリアに関しては、立ち上がりは例年に増してスムーズでしたが、急変時の連絡や傷病者の搬送、家族対応などについてマニュアルの浸透が課題であることが判明致しました。今後わかりやすいマニュアルへの改定と職員への啓蒙活動を行っていく必要があると認識致しました。また、今回は職員の安否確認アプリや新しい連絡手段としてIP無線、本部内で各エリアを視聴するカメラを導入致しました。それらの機器などを有効に活用できる災害体制を構築するために、今後も継続して当委員会でも活動したいと考えています。

今年度も多くの院内職員のみならず活水大学看護学部及び県央消防本部関係者など多数の方々に参加頂き災害訓練を無事終了することが出来ました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。引き続き御協力の程宜しくお願いします。



安否確認アプリ



IP無線



シンガポール国際学会体験記:Nurse Practitionerである私の挑戦!!

脳神経外科 Nurse Practitioner (NP) 本田 和也



学会の会場となったMarina Bay Sands

私はNurse Practitioner (以下、NP)という職種で活動しています。あまり聞き慣れない職種だと思います。NPとは、ケアとケアの融合による高度な看護学の知識/技術を駆使し

て、患者の治療・療養過程の全般を管理・実践することが出来る「高度実践看護師」と説明したほうがわかりやすいかもしれません。諸外国(特に米国)では、その役割が患者および社会からも認められ急増している職種です。一方日本ではNP教育が開始され10年経ちますが、いまだ公的な資格ではなく(国家資格ではない)、認知度も低く、その役割や効果をはっきり示すことができていません。今は発展途上ではありますが、日本版NPの脳卒中患者に対する関わりが退院や転院、在院日数にもたらす影響について、2016年から2017年の当院脳神経外科におけるNPの活動をもとにデータを分析し、その結果を国際学会で発表してきましたのでご報告いたします。

2019年6月、発表の舞台はICN (International Council of Nurse) Congress 2019でした。ICN Congressとは2年毎に開催される看護の国際学会で、100か国以上の看護師が参加する世界最大規模の学会です。会場は、シンガポールのあの有名なリゾートホテル「Marina Bay Sands」(写真左上)。その芸術的なデザインはマラーイオンに並ぶシンガポールの代表的な建造物だと思います。その

ような素晴らしい会場で「Nurse Practitioner as a solution to Seamless Care: Transition from Hospital to Home for the Stroke patients」というテーマで発表してきました。英語でのプレゼンテーションは人生で2度目の経験、国際舞台での発表は初めての挑戦でした。特に今回の発表はYouTubeで世界中にLive配信されるなどインパクトの大きい学会でしたので直前まで緊張し、諸外国の看護師中心の会場の雰囲気飲み込まれそうになりました。発表では、日本版NPの介入により、脳卒中患者の退院率増加、平均在院日数減少が得られたことを報告しました。さらに、ディスカッションで日本ではNPが公式に認められていない現状(課題)にも触れ、日本版NPのアウトカムを示していくことの必要性について言及することができました。質疑応答、発表後の交流で日本版NPの現状や課題についても情報交換することができ、諸外国も日本と同様の課題を乗り越えてきた過程(歴史)をあらためて知ることができました。今回学会に参加して得た経験は、私だけでなく多くの方々と共有したいと感じました。

最後に、今回の発表に至るまでのプロセスはもちろん自分一人だけでは成し遂げられなかった経験です。研究・発表の指導、支援をしていただいた上司、発表直前までプレゼンテーションの練習に付き合ってくれたNPの仲間、そして学会不在中にサポートしてくれた職場の同僚に心から感謝しています。発表がおわり一息。これからも引き続きNPとしてより多くの患者に貢献できるよう挑戦を続けたいと思います。



発表後にお声掛け頂いた国際新生児看護協会(COINN)会長のCarole Kenner氏。



Opening Ceremonyの様子
シンガポール初の女性大統領(Halimahbinti Yacob氏)がサプライズで登壇するなど、会場は大盛り上がりでした。

TOPICS

今年も元気なJICA集団研修でした。

国際医療協力室長 小森 敦正

去る7月23日、2019年度JICA‘アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政’集団研修コースの一環として、アフリカ13カ国の地域保健担当官および医師が当センターを訪問されました。離島医療圏での地域研修の前に、3次医療機関/親元病院である当院を見学し学習の一助にしようとする趣旨で、過去10年以上続いている研修です。

研修員数は13人と例年より多かったため、院内見学は2班に分かれ、ザンビアでの医療経験が豊富な三好康弘産婦人科医師にも協力いただきました。彼らには、何はともあれヘリポート見学なようで、今年も説明のはなから記念写真大会となりました。講義は、①当院病院情報システムについて(山崎臨床疫学研究室長)②JNP導入の背景と実際(森塚倫也JNP)③長崎県の離島医療政策とドクターヘリ(中道救急科医長)というプログラムで行いましたが、自国との医療システムの差異を背景にした質問が続きます。

Wrap up では、なぜか日本の少子化について質問

が飛びかいました。彼らには大層Culture Shockなようです。国際医療協力室長という“公的行政官”?として、来年はofficial な回答を準備する必要があるようです。

ご協力いただいた各位には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



TOPICS

NASHIM(ナシム)研修について

病理診断科長 三浦 史郎

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM: Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care)は、ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどのチェルノブイリ原発事故周辺諸国や、旧ソ連の核実験場があったカザフスタン共和国で、放射線ヒバクシャの治療にあたる医療従事者に対する指導、技術支援や医療情報提供を行うため、平成5年度から医師等の研修者の受入れ等を行う長崎県の国際協力事業の1つです。本院でも毎年NASHIM研修生を受入れ、国際協力の推進に努めています。

今年は、7月24日にロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンから計6名の医師と研究者が来院し、複数の協力スタッフによるリレー方式の研修を行いました。前田茂人先生による外科手術研修に始まり、江崎院長の病院紹介と意見交換、酒本司放射線技師長による放射線科見学、松崎敏幸ボイラー室長には地下免

震構造の説明、沖茂彦検査科技師長には臨床検査システムの紹介を行って頂きました。私の原爆被爆者組織バンキングについての講義のあと、救急救命の白水春香先生にドクヘリ運用の説明も行っていました。研修生からは多数の質問があり、活発で密度の濃い研修となりました。



夏の思い出フォトコンテスト



夜の向日葵

診療放射線技師 島本 惟

大村にある料理店「てん新」のそばの港から撮影した夏越花火大会の写真です。撮影時間を長くすることでいくつかの花火が重なり、たくさんの向日葵が咲いたような写真を撮影することができました。

撮影時間：16秒 ISO感度：200
F値：f8 ND2フィルター使用



優秀賞 ジイジは、トンボ取りの名人だ！ 副院長 八橋 弘



優秀賞 プールもまた楽し 産婦人科医師 梅崎 靖



特別賞 プリトヴィツェ湖沼群 病理診断科医師 伊東 正博



特別賞 The softcream 管理課 稗田 聖士

第6回市民公開講座のご案内

本年度の市民公開講座は、長崎県立長崎図書館“ミライon図書館”にて開催いたします。会場内に設けられる測定コーナーでは、骨密度測定、血管年齢測定などの体験もできます。

入場は無料です。事前の申し込みも必要ありません。皆様のお越しをお待ちしております。

日時 令和元年 **10月26日** **土**

14:00～15:30 (開場 13:00)

場所 ミライon図書館多目的ホール

長崎県大村市東本町481

講演

- 1** 乳がんについて 外科医長 前田 茂人
- 2** 前立腺がんについて 泌尿器科医長 大仁田 亨
- 3** 就労支援について ハローワーク長崎 福島 千鶴

問い合わせ先

長崎医療センター市民公開講座事務局(経営企画室 濱口)
TEL : 0957-52-3121 (代表) / FAX: 0957-54-0292

第6回

市民公開講座

地域がん診療連携拠点病院 長崎医療センター

入場無料
事前予約不要

日時 令和元年 **10月26日** **土**
14:00～15:30 (開場 13:00)

場所 ミライon図書館
多目的ホール
長崎県大村市東本町481

主催 独立行政法人 国立病院機構
長崎医療センター

共催 長崎県立長崎図書館 (ミライon図書館)

講演

- 1** 乳がんについて 外科医長 前田 茂人
- 2** 前立腺がんについて 泌尿器科医長 大仁田 亨
- 3** 就労支援について ハローワーク長崎 福島 千鶴

測定コーナー **※要予約** 13:00～14:00

- ◆骨密度測定 ◆血管年齢測定 ◆握力測定ほか
- ※骨密度測定は13:00～**13:50** 50名
- ※血管年齢測定は13:00～**13:50** 100名

◆子供向けコーナー

日時 令和元年 **10月26日** **土**
14:00～15:30 (開場 13:00)

場所 ミライon図書館
多目的ホール
長崎県大村市東本町481

主催 独立行政法人 国立病院機構
長崎医療センター

共催 長崎県立長崎図書館 (ミライon図書館)

問合せ先 独立行政法人 国立病院機構長崎医療センター TEL: 0957-52-3121
市民公開講座事務局 (経営企画室 濱口) FAX: 0957-54-0292



すといしーぶと 湾岸戦争と医局会

国立病院機構長崎医療センター
副院長 八橋弘



Vol.1 「すといしーぶ」

夏目漱石の小説「三四郎」の中には、ストレイ Sheep (迷羊：迷える子羊) の言葉が繰り返して出てくる。その語源は、新約聖書のマタイによる福音書にあるとのことだが、小説の中では物事を決められない優柔不断な主人公である三四郎を比喻する言葉として用いられている。一方、故寺本成美先生が、国立長崎中央病院(当院の前々名称)の院長就任十年と還暦を前に書かれたエッセイのタイトルも、「すといしーぶ」である。寺本先生の愛読書は「三四郎」と中国の古典の「韓非子」であり、八橋君もぜひこの2冊を読むように勧められたことがある。「韓非子」を読んでも驚くべき内容なのだが、寺本先生は、新たに教授や院長に就任された後輩の方々に管理者の教科書として贈呈されていたという。そしてご自身の著書のタイトルを「すといしーぶ」とされたところにも寺本先生の人としての深さを感じる。私は、自分の医師人生で判断の岐路に立った時には、思い出そうにして、この「すといしーぶ」を繰り返し読んでいます。その理由は、「すといしーぶ」の中で紹介されている新聞記事や寄稿文の中から、当時の当院院長としての寺本先生の苦悩と決断のプロセスを読み取ることができるからである。

平成から令和に元号が新しくなった5月、「せんさい」の編集委員から、「当院での平成の出来事」を振り返って紹介してほしいとの依頼を受けた。昭和63年10月に当院に赴任してから今まで、「当院での平成の出来事」を連続して見続けることができたのは、気が付くと私だけになっていた。これから数回に渡って「当院での平成の出来事」をピックアップして「せんさい」の中で紹介したいと思う。

看護部だより Vol. 14

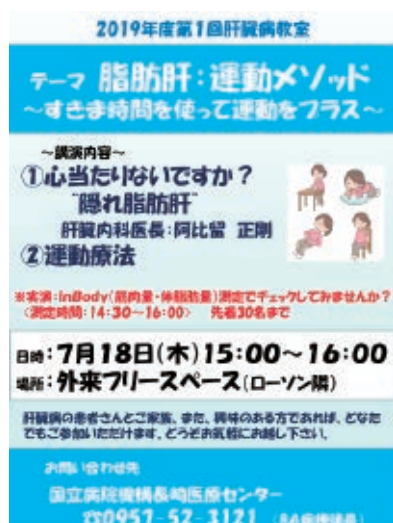
2019年度第1回肝臓病教室開催

8A病棟看護師長(肝疾患センター) 田中 康子

肝疾患センター(8A病棟)は、毎年肝臓病教室3回と市民公開講座を開催しており、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師と共同でテーマを考え取り組んでいます。

今回は、最近増加傾向にあって注目されている、非B非C型肝炎がんの原因の一つである脂肪肝について取り上げました。

テーマを「脂肪肝:運動メソッド〜すきま時間を使って運動をプラス」と設定しました。肝臓病教室の対象は、現在肝臓病を患い入院中、及び外来通院中の患者さんや家族の方々でしたが、今回からは、それ以外の方々にも対象を広げ、肥満、生活習慣病が肝臓に与える影響を理解していただき、沈黙の臓器と言われる肝臓に興味・関心を持ち、早期受診・予防に繋がっていただければと考え企画しました。内容は、講義と参加型のプログラムとしました。医師からは「脂肪肝ってどんな病気」という講義、看護師からは「筋力運動で肝臓を元気にする」という運動療法について参加型運動をまじえた説明、管理栄養士、薬剤師からは、体組成計による測定を行いました。



当日は、肝臓内科の患者さん以外の方の参加もあり、「肝臓について理解が深まった」「運動についてのパンフレットも作成してほしい、参考にして運動したい」「肝臓の検査について知りたい」「受診し調べてもらいたい」などのお声を頂きました。

「フォアグラ」のような脂肪肝にならないように、正しい知識を持ち行動(食事・運動)に繋げることが大切です。今後も予防、早期受診に繋げることができるよう啓発活動が続けていきたいと思います。

本年の市民公開講座は、9月19日(木)15:00~16:00に「肝臓を元気にしよう!」というテーマで、医師・管理栄養士による講演と、体組成測定を開催しました。また当日「肝疾患患者家族支援会」も開催し、病状、療養、栄養について個別の医療相談も行いました。12月19日(木)、2020年3月19日(木)には第3回、第4回肝臓病教室を予定しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

患者サポート室お知らせ

ハローワークによる出張相談窓口のご案内



仕事がきつく、病気のことで
配慮してもらいたいが、
会社にどう伝えたらいいだろうか？

退職したら、
雇用保険の手続きは？

自分を採用してくれる
企業があるだろうか？



休みを取りたいけど、
周りの人に迷惑を
かけてしまう。

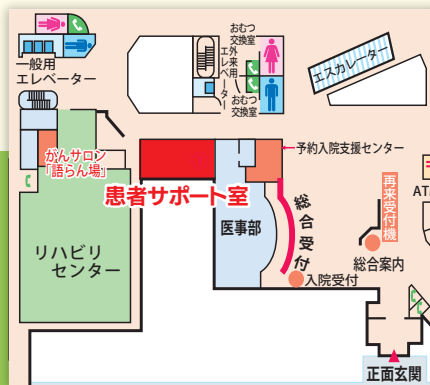


- 日時** 毎週木曜 11:00～15:00
- 場所** 長崎医療センター 患者サポート室
- 対象** がん、糖尿病、肝炎、その他の疾患の
治療中の方で、仕事のことでお悩みの方
- 申込** 要予約（下記までご連絡ください）
- 費用** 無料



予約・問い合わせ先

長崎医療センター 患者サポート室
TEL:0957-52-3121
月～金曜日 8:30～17:00



理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にに行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する